

亜熱帯の自然

—恵みの雨が降り住む島。



<沖縄の気候>

- 平均気温：22.4度、平均降雨量：2037mm。亜熱帯気候に属する。
- 最高気温と最低気温の差が少なく、冬が短い。
(真冬でも、本土の10月くらいの気候)
- 1年を通して湿度が高く、ときおりスコールが降ることもある。台風も多く上陸する。
→気候のちがいがから、動植物相が本土とはかなり異なる。島ごとの固有種も多い。

沖縄の気候をまとめると大体こんな感じになるだろうか。修学旅行で訪れる3月は、まだ海開きには早く、平均気温も20℃程度である。朝晩は気温が下がるので、人によっては薄手のセーターが欲しくなるかも知れない。

旧暦の3月頃、現代の暦でいう4月頃を表す季語で「うりずん」という言葉がある。本格的な夏を迎える前、デイゴの花が咲き、ほどよく雨が降るこの季節の沖縄が、いちばん爽やかで過ごしやすい。「うりずん」という大地の豊穡を予感させる語感も耳に心地よい。

日射しがやわらかく木々の芽吹きにおおわれた沖縄もまた、いいものである。個人で旅行をする機会があれば、この季節をおすすめする。

<沖縄の地質>

沖縄の自然を特徴づけるもう1つの要因に地質を挙げることができる。沖縄は160の島々からなるが、そのほとんどは「低島」と呼ばれる平坦な島である。これはサンゴの骨が厚く堆積した琉球石灰岩の層からなる島で、地理学的には「隆起サンゴ礁」と呼ばれる。

サンゴは明るく温暖な海を好むため、この島がずっとそのような環境にあったことを証明する貴重な証拠ともなる。骨というと嫌悪する人も多いと思うが、この骨は環境のよさを表すしあわせな骨である。

低島には山や谷がないため、真水の確保に困るという宿命がある。東京では大きなビルや学校などの屋上にしか見ない「水タンク」も沖縄では必需品であり、個々の家に普通に見受けられる。

沖縄本島は南北に長く、南半分が低島、北半分が高島というめずらしい島なので、屋上や庭先を車窓から眺めているだけでも土地のちがいが分かる。宇宙船がたくさん着陸したような水タンクの建ち並ぶ風景も、北部ではほとんど見かけない。

現在では水事情もかなり改善されたというが、真水が貴重な土地柄には変わらない。現地では水のムダ使いに気をつけよう。

シュノーケリング（沖縄マップG）

→本格的に海中に入り、沖縄でも有数のサンゴ礁を泳ぐ。

場所 恩納村安富祖 ミッションビーチ

準備 服装：水着 / 持ち物：着替えとバスタオル，飲み物

※体調不良など、水に入れない者には別プランあり。

順序 ① 健康チェック

② 挨拶と諸注意（遵守事項の徹底）

③ 講習内容の説明 →水着に更衣後、ウェットスーツ，マリンスーツ，ライフジャケットを着用。
マスク，フィン，シュノーケルを受け取る。

④ 準備運動

⑤ 浅瀬にてマスク，フィン，シュノーケルの使い方を習う。

⑥ 呼吸法をマスターしたのち、ダイビングポイントへ移動して海中へ。

⑦ 元の地点に戻った後、挨拶をして終了。

洞窟探検（沖縄マップG）

→全長約180m。地底深く延びる自然洞窟に潜る。

場所 うるま市石川手苺 スチシヌジガマ

準備 服装：裾がまくれるズボン / 持ち物：タオル，軍手，（着替え）

※洞窟近辺には非常トイレが1つあるだけなので、事前にトイレを済ませておくこと。

※洞窟内では一部膝まで水に入る。携帯やカメラの管理は厳重に。

順序 ① 挨拶

② スチシヌジガマの説明

③ 諸注意（遵守事項の徹底） →懐中電灯，シューズなどを配布。

④ 装備を着用し、洞内へ。

⑤ 出洞後、振り返りをして終了。

写真：漂着したメヒルギの胎生種子

ハーリー体験（沖縄マップG）

→漁港を貸し切って、沖縄の伝統船「ハーリー」で競漕を行う。

場所 うるま市石川石崎 石川漁港

準備 服装：濡れてもよい服装，運動靴 / 持ち物：着替え，タオル，帽子，飲み物
※着替えはバス内で、男女交代で行う。事前にトイレを済ませておくこと。

- 順序
- ① 挨拶と諸注意
 - ② 準備運動
 - ③ ライフジャケットを着用し、乗船。
 - ④ 海人より櫂の使い方や漕ぎ方、鐘の叩き方や応援の仕方などを習う。
 - ⑤ 競漕 / 応援
 - ⑥ 挨拶をして終了。

※11人乗り×2艇なので、③～⑤はクラスを半分に分けて交代で行う。

マングローブ観察（沖縄マップH）

→天然記念物に指定された、国内最大のマングローブ林を歩く。

場所 東村 慶佐次川河口

準備 服装：通常の服装でよい。

- 順序
- ① 挨拶とガイドの紹介
 - ② ガイドツアー
 - ③ 元の地点に戻った後、挨拶をして終了。

シーカヤック（沖縄マップH）

→タンデム（2人乗り）のカヌーで美ら海へ漕ぎ出す。

場所 大宜味村 塩屋湾

準備 服装：濡れてもよい服装，運動靴 / 持ち物：着替え，タオル，帽子，飲み物
※着替えは公民館で行う。事前にトイレを済ませておくこと。

- 順序
- ① 挨拶と諸注意
 - ② ライフジャケットを着用し、準備運動。
 - ③ 海人より櫂の使い方や漕ぎ方の基本を習う。
 - ④ 乗艇して沖へ出発。
 - ⑤ 元の地点に戻った後、挨拶をして終了。

伊江島（沖縄マップⅠ）

→城山（ぐすくやま）が見守る島。島の風土と、地元の方との交流を楽しむ。

◎伊江島の基本データ

- 大きさ：東西 8.4km、南北 3km、周囲 22.4km。豆のような形をした島。
- 北海岸は 60m の断崖絶壁、南海岸はほとんどが砂浜で、島の中央やや東よりに城山がそびえている。（標高 172m、古生代チャートの硬い岩山）
- 平均気温：24.2 度 平均降雨量：1867mm 亜熱帯気候に属する。
- 人口：5248 人（2005 年）
- 産業：さとうきび、葉たばこ、花卉、野菜、果樹、肉用牛、乳用牛など。

◎サイクリング班の持ち物と諸注意

持ち物 リュックサック，帽子

集合時間 ① 昼食時：（ ）伊江ビーチに集合。

② 離島時： 15:45 伊江港に集合。

※ 自転車を返却した上でこの時間に集まること。早めの行動を。

◎島を散策するときの注意

- ① 拝所（はいじょ）、御願所（うがんじょ）、御嶽（うたき）などに無暗に踏み込まない。
沖縄では生活のすぐそばに信仰の聖域がある。その他にも井戸（カー）や城（グスク）、自然の木、石なども拝みの対象になっており、石ひとつ持ち出すだけでも非常識な行為だと考えられている。その土地のモラルを理解することは、旅の大前提である。
→ニャティヤ洞など。聖地に足を踏み入れる場合は心の中で一礼してから入る。
- ② 戦跡では静かに。
祖先を特に大切にしている土地柄なので、地元の人を悲しませることになる。
- ③ 毒性生物に注意。
陸上ではハブの被害が多い。活動が活発になるのは 5 月くらいからだが、3 月でも見かけることがある。見かけても近寄らないこと。
ビーチではハブクラゲ、ウミヘビなど。かつてオコゼを踏んで大怪我になったこともあった。不用意な行動は慎むべし。
- ④ 車に気をつける。
島のほとんどの道路は車道と歩道が分かれていない。信号のない交差点も多い。自転車で島内を回るときには交通事故に十分注意すること。
- ⑤ 地元の方の注意は聞く。
いい旅人になる条件である。これができる人はどこへ行ってもその土地に溶け込める。

※以上は伊江島に限ったことではなく、どの地域にでも言えることである。